

富岡市長賞 銀賞

税について

妙義中学校 3年 田辺 一寿

僕は昨年夏、市の中学生海外派遣事業に参加した。この事業は、十二日間オーストラリアでホームステイをして過ごすものだった。そしてホストファミリーと現地の学校へ通学したり、日本では見たり体験できないような貴重な時間を過ごしてきた。初めて飛行機に乗り、いっしょに行った友達とも仲良くなれた。この海外派遣事業は日本円にして、およそ三十万円の費用がかかったが、半分の費用は親が、そして半分の費用は市で負担してくれた。僕を含めて十二人の人が参加したので約百八十万円が市のお金、つまり市民が市に支払う税金で僕達は今しか体験できない体験をしてきたのだと思うと、税というものが少し身近に感じるようになった。

税金、それは国民一人一人の義務である。なぜ義務なのだろう。それは国民のために使われるものだからだ。

僕が税を一番身近に感じるのは教育だ。全ての国民が平等に教育を受ける権利がある。そのために、僕らが勉強する教科書は無料、校舎、机、いす、体育館の用具や、校庭も整備されている。すべてが税金によってまかなわれている。また、僕らが通学する道路や橋、歩道などもきれいに整備されている。家庭から出るゴミも各自治体で決められた日に収集に来てくれる。また病気などで救急車を呼べば数分で来る体制が整っている。税金は僕らが安心して日常生活が送れるように使われている。

自分達一人一人ではできないような大きな施設や公園や道路にも、一人一人の税を納める小さな力が合わさるからこそ快適な生活ができるのだと感じた。

今年も各地で起こった自然災害では、多くの尊い命がうしなわれてしまった。その時の迅速な救助活動や警察犬などの出動なども僕らが安心して日常生活を送る事ができるいしずえとなっていると思う。

日本では今、百円の物を買うと百五円つまり五パーセントの消費税を支払っています。デンマークでは二十五パーセントの消費税を払っている。それでも国民は「自分達のために使われるからかまわないよ」と言っていた。

だれもが税金を生活向上のためにきちんと使ってくれるのなら高いと文句を言う人もいなくなるだろう。しかし、税金の無駄使いがあることも事実だ。以前、公務員の「カラ出張」や「カラ残業」が問題になった。そういった無駄使いをなくせば税金を払わない人は減ると思うし生活も向上すると思う。

僕もこの貴重な体験を忘れることなく、責任を持って納税を行える立派な大人になりたい。